

県士会ニュース

No.
193

Kanagawa Association of Occupational Therapists —KAOT—

Contents

TOPIC

各部からの報告

広報部▶ヨコハマ・ヒューマン&テクノランド2018 参加報告	2
制度対策部 福祉用具対策班▶生活行為工夫情報モデル事業のご参加のお願い	3
巻頭言	1
各部からの報告	2
連載 生活行為向上マネジメント	6
理事会報告	6
連載コラム ちょっと一杯どうですか?	8
研修会案内	9
求人案内	10
事務局からのお願い	11
作品コーナー	12
編集後記	12



巻頭言

第3回神奈川県臨床作業療法大会を終えて

大会長
(横浜 YMCA 学院専門学校)

三浦 美紀



去る7月29日(日)桜木町のはまぎんホールヴィアマールにて、第3回神奈川県臨床作業療法大会が開催されました。

今回の大会テーマを「輝く未来を創る」として、午前中は一般公開講座シンポジウム、午後からは口述発表を行いました。県士会主催の大会で、「子ども・教育・就労」をメインテーマとしたことは、初めてであり、近年の作業療法士の職域の拡大と多様性を物語っております。

当日は、一般の方も含め、延べ約460名の参加がありました。多数ご参加くださりましてありがとうございました。参加者のおよそ半数が一般の方であり、これほどまで一般の方が参加した大会も初でした。一般公開講座「気になる子どもたちへの支援の工夫」に関しては、医師、教育者、保護者、企業経営者、作業療法士の5名の方をシンポジストとしてお迎えし、それぞれの立場から子どもたちへの支援についての講演と、ディスカッションがありました。

シンポジストの方々は共通して、本人が自分の生活をコーディネートし、選択していく力を育むことの重要性を語っておられました。輝く未来に向かって、今から10年後20年後を見据えていこうという提言は、今回の大会テーマそのものでした。参加した大勢の方々に「素晴らしかった」という感想をいただき、明日からの臨床に繋がることのできる内容となりました。

また、午後からの演題発表は、2セッションを通して行われました。様々な領域の発表があり、各方面において日々

鋭意努力を重ねている様子を伺い知ることができました。

ロビーの展示も充実しておりました。学会ではいつもお世話になっている有隣堂様の書籍販売、パシフィックサプライ様の展示をはじめ、作業療法士にはぜひ知ってほしい、とステージ上でデモンストレーションも行った遠隔操作ロボット OriHime、シンポジストの経営するチョコレート工房 CHOCOLABO の商品販売等、これまでの作業療法学会ではなかった新しい業者様にも出展いただき、行列ができる程にぎわいました。

今回の大会は、19団体という多くの企業、団体様から後援をいただきました。また、特別協賛をはじめ、飲料の物品協賛もありました。事務局であったYMCAの社会的信頼度が高いことに加え、それだけ作業療法に対する他職種や県民の皆様からの理解が進んだ証とも言えましょう。ご後援、ご協賛いただきました団体様に深謝いたします。

また今回の大会では、西日本豪雨被害の募金活動も併せて行いました。募金総額は25,687円になりました。こちらは、神奈川県作業療法士会から被災地域の作業療法士会を通じて、地域の方々へ還元されます。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

次年度は、第17回作業療法学会が7月20日(日)野々垣睦美学会長の下、メルパルク横浜にて開催されることになりました。演題募集はこれからになりますが、会員皆さまの積極的なご参加をお待ちしております。

各部からの報告

広報部

■ヨコハマ・ヒューマン&テクノランド 2018 参加報告

7月20・21日、みなとみらいのパシフィコ横浜にて、ヨコハマ・ヒューマン&テクノランド（通称ヨット）が開催されました。ヨットは、横浜市リハビリテーション事業団が主催するリハビリテーション関連ブースや福祉機器等の展示会です。開催17回目を迎える今回は2日間で15,213人もの来場者があったようです。今年は、パラスポーツの体験ブースが大きく設けられ、会場には時折ウィルチェアラグビーの車椅子同士が衝突する音が鳴り響き、より会場の活気を盛り上げていました。

そんなヨットに今年も県士会のブース出展をいたしました。県士会ブースでは、作業活動の体験コーナー（紙の

しおり作り）を設け、活動を通して「作業療法」を知っていただく機会を作ったり、ブース来訪者から生活で困っていることの相談を受けたりしました。

ブースを訪れた方の中には昨年もブースに来て、片麻痺で行う作業活動に貴重な助言を毎回くださる「常連」さんともお会いすることができました。

また前年度から始めた作業療法士の認知度や需要に関するアンケートも実施しました。リハビリに関する催し物会場であったため、訪れた方々の作業療法士に対する認知度は高い傾向ではありましたが、作業療法士の活動や仕事内容の認識が低い傾向は、前年と同様でした。こうした活動で得られた情報や、ご意見、ご相談を次回の広報活動に活かしていきたいと思っております。（文責：対外広報班 水野 友和）



制度対策部 福祉用具対策班

■生活行為工夫情報モデル事業のご参加のお願い

初めまして、神奈川県作業療法士会制度対策部福祉用具対策事業班の宮田と申します。

皆様は『生活行為工夫情報モデル事業』というものをご存じでしょうか？

『生活行為工夫情報モデル事業』は、高齢者や障害者をはじめ生活行為に不自由さを感じているすべての住民が、自ら有する能力を発揮し自分らしい生活ができるよう、当事者や関係者に対して生活行為の課題解決に向けた工夫情報などを提供するとともに、身近な地域でOTによる相談が受け入れられる体制づくりを協会全体として実施するための基盤作りを行うことを目的としています。

『生活行為工夫情報モデル事業』で集めている具体的な事例としては、何らかの理由で車いすのブレーキを、ご自分でかける事が出来ない方に対して、車いすのブレーキにラップの芯を付けることで、当事者自身で車いすのブレー

キ操作が自分で行えたなどが挙げられます。その他にも、たくさんの事例が集められております。

神奈川県作業療法士会では、全国に先駆け2016年からこの事業を実施しており、皆様のご協力により約100事例を集めることができました。ご協力して頂いた先生方には深くお礼申し上げます。

今年度につきましても、『生活行為工夫情報モデル事業』は引き続き事例を募集しております。また、登録済みの事例に関しては、『福祉用具相談支援システム』のホームページ上より登録していただくことで、閲覧することが可能です。ぜひ、実際の臨床に役立てる内容などを見つけていただき、ご活用して頂けたらと思います。

『生活行為工夫情報モデル事業』についての詳細内容は、県士会のホームページにも記載されておりますのでご覧ください。今後とも本事業へのご協力をよろしくお願い致します。
(文責：宮田 和典)

教育部 連載 「お届け！生涯教育制度、あれもこれも」

県士会ウェブサイトから質問ができます！

「お届け！生涯教育制度、あれもこれも」は、生涯教育制度関連の情報を毎号少しずつお伝えしています。

1. 今後の生涯教育制度関連の研修会

※県士会ニュース、今号のチラシや県士会ウェブサイトをご参照ください。

1. 現職者選択研修：必修のMTDLP基礎研修と領域別選択（身体・老年期・精神・発達）の4障害領域から一領域：90分×4コマの選択受講が必要）の研修で、生涯教育制度の必須基礎研修です。

なお、MTDLP基礎研修はMTDLP推進委員会が開催しますので情報にご注意ください。

現職者選択研修 身体障害領域

日 程：2018年12月16日（日）

会 場：ウイリング横浜

現職者選択研修 精神障害領域

日 程：2019年2月24日（日）

会 場：ウイリング横浜

2. 現職者共通研修

・「事例報告と事例研究」12月23日（日）ウイリング横浜

※同日に事例報告登録制度に関する研修（以下）を開催します。

・「事例検討」と「事例報告」（事例発表会）2019年3月10日（日）ウイリング横浜

※ぜひお申し込みと事例報告へのチャレンジを！

※なお、10月7日（日）、10月14日（日）にも現職者共通研修（他テーマ）が開催されます。

3. 「事例報告登録制度に関する研修会」12月23日（日）ウイリング横浜

参加費：神奈川県士会員 無料！他県士会員 1,000円

※同日に現職者共通研修「事例報告と事例研究」を開催しています。合わせてご参加ください。

生涯教育制度に関してどんなことでもご相談、ご連絡ください。県士会ウェブサイトからも質問ができます。

教育部 奥原 孝幸（神奈川県立保健福祉大学）

046-828-2738（直）、koyoiku@kana-ot.jp

地域包括ケアシステム推進委員会

■養護学校での地域イベントに協力してきました！

NPO 法人高津総合型スポーツクラブ SELF からのご依頼により、6 / 23(土)に神奈川県立麻生養護学校で開催された「麻生スマイルフェスティバル」でお手伝いをしました。養護学校に通う児童は身体を動かす機会が少なく、「作業療法士の知見を活かして児童の運動機会を作ってほしい！」との要望があり、地域包括ケアシステム推進委員会として協力する運びとなりました。

当日は当委員会から大郷和成と佐藤佳央里、藤沢市で障がい児の遊び場「遊びリパーク リノア」を運営する NPO 法人 laule'a から鈴木拓真さんが助っ人参加してくれました。

知的障がい児や肢体不自由児のストレッチ体験を実施。遊びながら身体を動かすことで、児童も親御さんもニコニコした時間を過ごしていただきました。改めて、作業療法士として地域の役に立てることが色々あるなあ実感した 1 日でした。



■地域包括ケアシンポジウムの開催が決定！

昨年に引き続き、今年度もシンポジウムを開催いたします。今年のテーマは「多職種のかげ算で地域ニーズにこた

えよう！（仮）」。

シンポジウムでは、地域で活躍している OT、PT、介護福祉士、医師にご登壇いただきます。今までにないざっくばらんでアツいシンポジウムになること間違いなし！会員のみならず、まずは日程の確保をお願い致します。

《開催概要》

日時：2019 年 1 月 13 日（日） 14：00～17：00

場所：神奈川県立地球市民かながわプラザ（あーすぶらざ）

人数：100 名

■介護予防事業の出張セミナーを受け付けています

当委員会が取り組んでいる「横浜市地域リハビリテーション活動支援事業」ですが、より多くの OT に参画していただきたいと思っております。この事業は、横浜市各区において地域住民への健康づくりの支援や地域ケア会議などへの OT 派遣を行っております。8 月にセミナーを開催しましたが、ご参加いただけなかった方もいらっしゃるかと思います。

職場単位でこの事業への参画を希望される場合は、職場にて事業の説明会を実施させていただきます。ご興味がある方は以下までご連絡ください。

メールアドレス：kaot@kana-ot.jp

件名：「地域包括ケアシステム推進委員会に転送」

（文責：大郷 和成）

地域リハビリテーション部

■日本作業療法士協会主催地域ケア会議および介護予防・日常生活支援総合事業に関する人材育成研修会に参加して

平成 30 年 7 月 21 日・22 日に猛暑真っ盛りの半端ない暑さの中、各都道府県代表が秋葉原に集まり二日間にわたり地域ケア会議および介護予防・日常生活支援総合事業に関する人材育成研修会が開催されました。介護予防・日常生活支援総合事業は、これまで介護保険で担っていた要支援者への介護予防サービスの一部や、介護保険の認定を受けていなくても、一人ひとりの生活に合わせた柔軟なサービスの提供が目的とされています。平成 27 年からの施行ということで、全国的に参画している作業療法士が少ないこと、参画する目的や果たすべき役割の学習や理解が不十分であることが残念ながら現状とのことです。今回の研修会参加者の声からも、都道府県士会で開催している総

合事業に関する研修会の参加者が少ない傾向にあるとのことで、会員への啓発が全国的な課題となっています。

今回の研修では総合事業への参画するため事業計画立案の演習と、地域ケア会議にて「作業療法士の専門性」を活かした助言ができること、の二本立てで進行されました。事業計画立案演習においては平成 31 年より介護予防活動普及展開事業の事業実施にあたり士会に依頼があったテーマについて、役所に誰があいさつするのか、予算をどうするか、そもそも作業療法士が介護予防事業の中でどのような役割が果たせるのかなど、非常に現実的な内容の演習となりました。

地域ケア会議は多職種が協働する場であるので、助言に際しては我々専門職が度々指摘される専門用語の乱発を避け、具体的かつ平易な言葉で伝えることが大前提として、相手にしっかり伝える意識を高く持つようにとのことで

す。作業療法士としての専門性を活かした具体的な助言はもちろんのこと、初めてお会いする方への初頭効果を意識した対応など、伝えたい相手に印象良く伝える努力をしてほしいとのことでした。ビジネスフレームワークで一般的に使用されている5W1Hの活用が相手にわかりやすく伝えるためには有効な手段とのことでした。研修後個人的に調べたところ5W1Hの中でも優先順位があり、「WHY」から伝えることで伝えたい内容がぶれない!とのことでした。皆様もぜひご自身で調べていただき、臨床で生かしてみてください。

総合事業や地域ケア会議は作業療法士の中での意識はまだ低い状況かもしれません。しかし我が国の高齢化は急速な進展を続けており、病気や障害があったとしてもずっと病院や施設で過ごせる時代ではありません。作業療法は人々の健康と幸福を促進するために行われる援助だと定義が変わりましたが、その援助は生活行為を向上させる目的で行われるべきですし、その生活行為が行われる場は、それこそが地域です。我々作業療法士は地域包括ケアシステムと向かい合わねばなりません。その中でどうやって生き残っていくかを真剣に考える時期は、まさに今です。なかなか馴染みのない分野かもしれません。まずは我々自身の在住する地域で総合事業がどのように動いているかに興味を持って、明日から動いてみてはいかがでしょうか。

■活動報告：港北区リハビリテーション連絡会

港北区地域リハビリテーション連絡会では、医療・介護・福祉などの領域に囚われず、港北区内で活動するセラピスト（PT・OT・ST）同士が繋がり、区内及び周辺が多職種と連携して、地域での疾病の予防・回復・その人らしい生活支援へ貢献できる体制を構築することを目的として様々な活動を行っています。

昨年度は7月と2月に連絡会を開催し、各施設の特徴や取り組みについて伝える「施設紹介リレー」と大豆戸地域ケアプラザからケアマネージャーをお招きして「セラピ



施設紹介リレー

ストへ期待することをテーマとした勉強会」を行いました。参加者からは、「港北区のセラピストが集う会があることを初めて知った。顔の繋がりを作れる場があるのは有難い」「各施設が得意としている分野についてもっと知りたい」などの声が寄せられました。

今年度は①地域ケアプラザを中心とした医療・福祉・保健の地域交流（各セラピストの専門や特性を把握し発信するためにリハビリマップの確立）②ボランティア活動などの活発な市民活動と協働し、健康づくり・介護予防（介護予防支援事業の取り組み強化）③2025年に向けた人材の確保・育成（介護予防支援の勉強会や専門性向上の勉強会開催）を行動目標としていますが、現在作成中のリハビリマップではOTは11施設での参加があります。OTが在籍している港北区内全施設の参加を目標としていますので、当連絡会の活動に興味ある方の参加をお待ちしています。（尚、Facebookでも勉強会の告知を行っていますのでぜひ検索してみてください @yokohama.kouhoku.rehanet2015）

■地域ケア会議や介護予防事業に参加している方いませんか

各市町村で総合事業の取り組みが本格化してきています。会員の皆様も地域事業に関わる機会が増えてきますので会員の皆様からも情報を得ながら県士会の事業も進めていければと考えています。ぜひ、会員皆様からも作業療法士が関わっている地域事業がありましたら情報提供をいただければと思います。地域リハ部だけでなく県士会全体で情報共有していければと思いますのでご協力の方をよろしくお願いします。ご意見や情報がありましたら下記のメールアドレスまでご連絡をいただければと思います。

【問い合わせ】 地域リハビリテーション部

Eメール：chiikireha@kana-ot.jp

（文責：遠藤 陵晃）



勉強会の様子



生活行為向上マネジメント

会員諸氏におかれましては生活行為向上マネジメントの普及推進にご協力いただき御礼申し上げます。

今年度のMTDLP研修会（旧基礎研修会）は2回を予定しております。

企画が大幅に遅れておりまして、会員の皆様にはご迷惑をおかけしておりますが決定次第ウェブサイトに掲載いたしますので、ご確認をお願い致します。

また、事例発表会を例年開催しておりますが、本県では事例発表会にご参加される方は多くありません。そのため事例発表会開催のコストを削減するため、開催場所は無料の会場（事業所）にいたします。

事例発表の準備が出来た会員の方は下記までご連絡ください。日程調整をして、1～5名程度の少人数で開催をしていきたいと思っております。

ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

《事例発表の準備》

- 1) 生活行為向上マネジメントシート (A4 1枚)
- 2) 生活行為課題分析シート (A4 1枚)
- 3) 抄録 (A4 1枚にまとめる)
- イ) タイトル
- ロ) 事例紹介
- ハ) 作業療法評価
- ニ) 作業療法計画
- ホ) 介入経過
- ヘ) 結果
- ト) 考察

《連絡先》

下記アドレスにメールにてご連絡ください。

宛先: mtdlp@kana-ot.jp

件名: 「MTDLP 事例発表申込み」

(文責: 生活行為向上マネジメント推進委員会 木村 修介)



理事会報告

★平成30年(2018年)度6月理事会議事録

- I. 日 時: 平成30年6月21日 (木) 19:00~20:50
- II. 場 所: 神奈川県作業療法士会事務所
- III. 出席理事: 錠内・木村・金山・佐々木・奥原・神保・
玖島・遠藤・作田・村越・澤口・佐藤・
大郷 (13名)
- 欠席理事: 野々垣・吉本・野本・名古屋 (4名)
- 出席監事: 田中・糊澤 (2名)
- その他: 宮沢 (事務局 書記)

IV. 審議事項

1. 認知症対策委員会

- (1) ボランティア保険について
今年度については早急性があるため社協の保険を検討。次年度に向け他社から見積もりをとっていく。
⇒ボランティア保険に入ることは承認。今後については継続審議とする。

2. 公益法人化対策委員会

- (1) 公益事業を担う部署について
公益法人の条件は予算の50%以上が公益事業であること。検討会のようなものを作る方法もあるか。
⇒公益法人化対策委員会が企画調整の役割を担い、公益事業の提案を行うよう検討していく。
- (2) 外部の方の役員について
⇒公益法人から提案していく。

3. 学術部

- (1) 部員の承認
佐々木祥太郎氏 (聖マリアンナ医科大学西部病院) 学術誌査読委員
迫田裕司氏 (田名介護老人保健施設光生) 学術誌編集部員
⇒ 2名とも承認

4. 制度対策委員会

- (1) 部員の承認
鎌田博之氏 (横浜なみきリハビリテーション病院) 福祉用具対策班
神保匡良氏 (茅ヶ崎リハビリテーション専門学校) 福祉用具対策班
⇒ 2名とも承認

5. 学会評議委員会

- (1) 部員の承認
机里恵氏 (横浜リハビリテーション専門学校)
⇒ 承認
- (2) 2019年度 第17回神奈川県作業療法学会の会場について
2019年7月21日 (日) メルパルク横浜
ワンフロア貸し切ることによって予定よりも高くなるが、他団体の利用がないこと、部屋だけでなく通路の利用が可能になることがあげられる。
⇒ 承認

V. 報告事項

1. 事務局

- (1) OT 協会推進活動用ポスター 例年通り 2 名以上作業療法士がいる職場へ送付
- (2) ブロック化検討ワーキンググループ
総会での報告内容について検討した。また、47 士会にブロック化に関するアンケートを実施。9 士会から返信があったが 8 士会はブロック化。1 つはしたものの活動できていない。ブロック化して事務的に煩雑になっているが活動はよいという意見多い。
- (2) 研修会検討会
研修会費について各部・委員会で審議した。また研修会申し込み外部フォームの活用について検討した。

2. 学術部

- 1) 研修会について
身障部門 7 つ、精神は検討中。
- 2) 学術誌「神奈川作業療法研究」の新編集部の設立
今年度より北里大学幅田智也氏が新編集長となり、引き継ぎ作業が終了した。昨年度までは白濱編集長が一人で行っていた業務を新編集部の設立により、組織として運営を行って行く予定。

3. 広報部

- (1) ニュース班
 - 1) 費用について
会員増加あるも印刷費節約や外部臨時収入などで費用も横ばいからやや右肩上がり程度で実施できている。30 年度も同様に実施してゆく予定。
 - 2) 対外広報班
 - ① ヨコハマヒューマンテクノランドにブース出展
 - ② 県央地区
海老名駅（ららぽーと海老名）にて介護相談会

4. 福利部

- (1) 表彰関連
2018 年 5 月 27 日の社員総会にて、JAOT 特別表彰、県士会表彰受賞者への表彰を実施。当日不参加の方へは、記念品等を郵送。
- (2) 学術部合同新人オリエンテーションについて
2018 年 6 月 17 日（日）、IMS 横浜看護専門学校（長津田）で開催。研修会后、40 名の参加あり。

5. 地域リハビリテーション部

- (1) 研修会企画
 - ① 多職種精神保健セミナー② 特別支援教育など講習会③ 地域リハ人材育成研修会（介護予防編）④ 地域リハ人材育成研修会（地域ケア会議編）⑤ 地域包括ケアシステム三団体合同研修会⑥ 難病リハビリテーション講習会

6. 制度対策部

- (1) 福祉用具関連事業班
 - 1) 生活行為工夫情報モデル事業
OT 協会主催モデル事業連絡会議出席予定。内容を踏まえて士会内他部門との連携会議を実施。MTDLP、地域リハ部と連携しすすめていく。

- 2) H.C.R（2018 年 10 月 10 日～12 日）
「ふくしの相談コーナー」に HCR から協力打診が協会にあり、今後協会より神奈川（福祉用具班）へ事業依頼がある予定。例年通り引き受ける予定。

(2) 社会保障制度対策班

- 1) 自動車運転と OT に関して
ネットワークづくりを目指し、有志メンバーと意見交換会を実施予定。現状把握と県士会としての取り組みのニードを計る。
- 2) 特別支援教育に関わる作業療法に関する取り組み
特別支援教育に関わる作業療法士に対し、情報収集を継続する。他部門との連携または業務統合も検討する。

(3) 災害対策班

- 1) 安否システムの修正を図り、今年度もデモ運用を行う
- 2) 神奈川 JRAT との連携、情報共有のためのミーティングを持つ。

7. 学会評議委員会

- (1) 第 3 回神奈川県臨床作業療法大会
2018 年 7 月 29 日（土）はまぎんホールヴィアマールで開催
- (2) 第 17 回神奈川県作業療法学会
学会長 野々垣 睦美氏（クラブハウスすてっぷなな）

8. 地域包括ケアシステム推進委員会

- (1) 地域包括ケアシステム推進委員会
 - 1) 横浜市地域リハビリテーション活動支援事業の説明
主な派遣の内容は元気づくりステーションへの援助、地域ケア会議、保健師等向けの研修講師。派遣回数は今年度 63 回（昨年度は 54 回）。介護予防リーダー（住民）が住民向けに指導する育成についての協力依頼あり。OT には認知症について、認知症予防についての希望あり。
 - 2) 神奈川県協働事業への協力「地域における障害者スポーツ普及促進とかながわパラスポーツの推進」について
NPO 法人高津総合型スポーツクラブ SELF から協力依頼あり。県内の特別支援級をパラスポーツの拠点にしてほしいと県から依頼されているとのこと。特別支援学校の在校生・卒業生や地域の特別支援級の児童生徒、さらには地域の高齢者をはじめとする地域住民と一緒に運動を通して交流するインクルーシブな地域包括コミュニティ拠点を目指す。
 - 3) OT 協会の総合事業実践事例集の作成協力
OT 協会の HP からダウンロード可能。

9. その他

- (1) 渉外（会長）
2018 年 11 月 12 日 神奈川県病院学会「働き方改革」
- (2) OT 協会事業「介護ロボット シーズ・ニーズ連絡協議会」(会長)
全国 50 か所設置。委員長は各士会会長が担当。詳細情報は理事とシェアする。

以上
(文責：金山)



ちょっと一杯 どうですか？

No. 8 「居場所」



『おじちゃん』って近所の子供たちに呼ばれている私も、自宅近くの病院に勤務する作業療法士。病院では、誰からも『〇〇先生』と呼ばれている。

今年もツバメが玄関に飛んできた。遠い南の国から海を渡って季節を告げに遥々と。「お前さんは、去年のツバメちゃんかな？それとも違う居候人かな？」パツと見れば皆同じ顔に見えるけど、ま、向こうからしてみても同じ心境だろうな。取りあえず「今年もがんばってね」と静かにメールを送りつつ、やたら警戒するツバメちゃんとなるべく目を合わせないように、そろりそろりと玄関の扉を開けて家に入った。毎年行われる居候ツバメとの暗黙の共同生活が今年も始まった。

ここ最近、身内の怪我で整形外科クリニックに付き添っていく機会があった。レントゲンを撮ってからの診察。ここまでの待ち時間は、およそ1時間15分。名前を呼ばれて診察室に入る。先生がレントゲンの写真を見ながらこちらを振り向き「ん、いいよ。じゃ1週間後に来て」と、「ありがたい御言葉!?”を添える。診察は瞬きをしている間に終わる瞬間劇だ。ただ、患者は後から後から引切り無しに続き、浜辺に寄せる波の如く途切れることはない。当然、この流れを止めれば大変な事態が想定されるので、半ば同情もしたくなる診療の裁きに他言無用。一言「ありがとうございます」と、我々は先生に礼を述べ診察室を出た。この整形外科クリニックはリハビリもあるようで、足を引かずった御年配の方々がどんどん受付に来る。受付の方が元気よく「じゃ、リハビリに行ってください」と笑顔で答える。目指すりハビリ室はなんと階段が上がった2階にあるようだ。“よっこらしよ、どっこいしょ”と自力で昇る。エレベーター無し、バリアフリー無しのクリニック。2階に無事昇れた者だけがリハビリを受けられるシステムだ。そのシステムに高齢者が順応している。私は普段と異なる環境に“こういうのもありか…”と、何とも言えない関心を抱く。たまには自分の居る職場以外を見回すと色々な発見があってチョイと面白い。新旧の入り混じる光景のようだが、不思議と自らの寝ぼけた頭を刺激してくれた。そういえば兎角我々は、新しいものに引き寄せられてしまう、そんな感覚が少し宿り過ぎている傾向があるかもなあ。しかし、このクリニックは、そんな温床に漬かった考え方を見直す機会を作ってくれる。決して新しいものが良いとは限らない…かも…しれない。そして、目の前で繰り広げられている事象に現実的なアイデアを浮かべてみたり…そんな時間が流れた。さらに周りを見ると、診察やリハビリで待っている患者さん同士が仲良く話しをしてい

る。彼らの話題は専ら自らの怪我の事と治癒過程の紹介。診察までの長い1時間を有効に使う。互いが初対面という状況の様子。まずは手始めに自己紹介を始めた。「私はね、心臓も悪くって〇〇病院に通っているの。そして腎臓も悪いって言われて、近くの△△病院に行って、あっちこっちが悪くって、あっちこっちに掛かっちゃってね。でね…〇〇病院の〇〇先生と、△△病院の△△先生はとってもいい先生でねえ…面白いのよ…」と、病院に掛かっている数と知っている医師の数、そしてその後、自分自身の身の回りの事情を話し、最後に「そんなわけで“ぐきっ”てね、つま先を打っちゃってね、心配だったからここに来たのよ。折れちゃったりしていないといいけどねえ。ハハハハ。」『あら、私もね…』と同様の自己紹介がもう一方で始まる。このような場面があちらこちらで散見される。すっかり意気投合すると声が一段と大きくなり、笑い声とともに笑顔を振りかざし、更に他の患者さん達を巻き込み組織を拡大していく。素晴らしい統率力と積極性を発揮しつつも、ご本人の名前が呼ばれると「は～い！」呼ばれたわ。じゃ、先に行ってくるわね！」“いってらっしゃい”と皆に見送られ、スッと席を立てて診察室に入って行く。診察を終えて戻ってくると先ほどまで話をしていた組織集団に“おかえりなさい”と迎えられる。まさにアットホームな素晴らしい組織を築いている。お見事!!なのだ。

様々な医療の現場では、ピアグループなどのように同じご病気の方々が集まり、様々な活動などが企画されたりすることもある。互いの辛苦を共有することだけでも、日頃抱いている孤独感の開放性があり、許される心情に安堵がある。それは、生活の質的効果を高める目的も備え、複数で構成される人だからこそ引き出される力が存在し、参加者の満足度も高い。それぞれの居場所は心の拠り所。聞いてくれる人が居る場所は、互いの承認手続きが自然と生まれる。だから心地よい居場所と化すのも分かり易い。作業療法は「生きがいをサポートするスペシャリスト」とある人は言う。決して運動機能ばかりに囚われず、主役の患者さんたちが自然と質的効果を引き上げるような、そんな居場所が提供できているだろうか。自分の職場をもう一度見渡してみたくなった。

今回も登場した“おじちゃん”。OTを一生涯の仕事と決意し、長いOTの歴史と共に奮闘している“おじちゃん”です。あくまでもおじちゃん視点での作業療法学を織り交ぜた連載コラムです。面白エピソード満載です。次回もお楽しみに。
(文責：ペンネーム おじちゃん)

研 修 会 案 内

●【触診が苦手な方限定】第8期 6日で学ぶ評価・アプローチのための触診セミナー BASIC コース

主 催：療法士活性化委員会
日 時：2018年10月6、7日 11月3、4日
12月1、2日
場 所：ウィリング横浜
U R L：http://lts-seminar.jp/syokushinbasic/

●呼吸リハビリテーション～基礎知識と実際のアプローチ方法～（横浜会場）

主 催：Medical MARKSTAR
日 時：2018年10月8日
場 所：ウィリング横浜
U R L：https://www.markstar.net/respiration2/

●臨床シーティングセミナー 理論編×実技編
～身近なものを利用してクッションを作ろう～

主 催：日本ユニバーサル リハビリテーション協会
日 時：2018年10月8日
場 所：八王子市芸術文化会館いちょうホール
U R L：http://universalreha.com/

●湘南OT「生活期の作業療法」

主 催：湘南OT交流会
日 時：2018年10月13日
場 所：湘南 C-X OZAWA BLDG
U R L：http://shounanot.wixsite.com/shounanot/schedule

●ものづくりシーティングセミナー 原理編×工房実技編
～シートクッションをつくろう～

主 催：日本ユニバーサル リハビリテーション協会
日 時：2018年10月14日
場 所：八王子市芸術文化会館いちょうホール
U R L：http://universalreha.com/

●終末期・緩和ケア作業療法研究会
第9回年次研修会 in 岡山

主 催：終末期・緩和ケア作業療法研究会
日 時：2018年10月13、14日
場 所：公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構倉敷中央
病院 大原記念ホール
URL：http://www.kanwaot.net

●現職者選択研修（発達障害領域）

主 催：東京都作業療法士会
日 時：2018年10月21日
場 所：帝京平成大学 池袋キャンパス
U R L：http://tokyo-ot.com

●脳卒中片麻痺者に対する歩行と装具のバイオメカニクス（横浜会場）

主 催：Medical MARKSTAR
日 時：2018年10月21日
場 所：ウィリング横浜
U R L：https://www.markstar.net/orthosis-biomechanics/

●呼吸器疾患みるべきこと、するべきこと

主 催：高齢者をリハビリするセラピストのための研究会
一コウセラ－
日 時：1日目：2018年10月21日
2日目：2018年10月28日
場 所：1日目：八洲学園大学、2日目：鎌倉芸術館
U R L：https://koutheraken.jimdo.com/

●湘南OT「作業で語る作業療法」

主 催：湘南OT交流会
日 時：2018年11月4日
場 所：湘南 C-X OZAWA BLDG 会議室 2
お話し頂く予定です。
U R L：http://shounanot.wixsite.com/shounanot/schedule

●第50回三浦半島作業療法研究会「実技研修会 中枢神経系の評価と治療 vol.11 座位から立位へ」

主 催：三浦半島作業療法研究会
日 時：2018年11月16日
場 所：神奈川県立保健福祉大学
U R L：http://miuraot.kenkyuukai.jp/event/

●【複合的腰痛アプローチ】ILPT 腰痛治療セミナー
「腰に触れる前に知っておきたい！腰痛改善法の大原則」

主 催：一般社団法人 国際統合リハビリテーション協会
日 時：2018年12月2日
場 所：横浜市金沢産業振興センター
U R L：https://iairjapan.jp/backpain

求人案内

社会福祉法人みどりの風

勤務地：横浜市緑区西八朔町 99-1
介護老人保健施設みどりの杜（もり）
募集人員：常勤 1 名（資格免許、運転免許）
業務内容：介護老人保健施設における入所・短期・通所リハ・訪問リハご利用者へのリハビリ業務及び関連業務
給与等：225,000 円～ 253,000 円（諸手当込）、他住宅・扶養手当（条件有）、通勤手当（上限有）、退職金制度（勤続 2 年以上）、社保完備、昇給年 1 回、賞与年 2 回（前年度実績 4.0 ヶ月）、制服貸与、無料駐車場有、研修受講費補助制度有
勤務時間：8 時 45 分～ 17 時 45 分（休憩 60 分）
※前年度平均時間外 2 時間／月程度
休日休暇：土日、夏季休暇、年末年始、年次有給休暇
※前年度有給消化率 90%
応募方法：電話もしくはメールでご連絡ください。

問い合わせ先

〒 226-0024 横浜市緑区西八朔町 99-1
TEL：045-929-5000
Email：info@midorinokaze.or.jp
URL：http://www.midorinokaze.or.jp
施設ブログ：http://midorinomori-blog.blogspot.com

医療法人社団 志朋會 樹診療所

募集人員：若干名
施設概要：精神科・心療内科 診療所 訪問診療 外来診療
デイケア（重度認知症、高次脳機能障害）
応募内容：2019 年 4 月金沢区金沢文庫に開設予定の 2 つのデイケア立ち上げにご協力頂ける方を募集しています
待遇：当法人規定による（経験者優遇）
福利厚生：社会保険 雇用保険 厚生年金等
勤務時間：8：30～17：30
休日：完全週休 2 日制 年末年始・夏季休暇
応募方法：電話連絡の上、履歴書（写真貼付）と免許証の写しを下記宛にご郵送ください
※まずはお気軽にお問い合わせ下さい

問い合わせ先

〒 236-0052 横浜市金沢区富岡西 2-1-10-3F
TEL：045-772-6780（担当：事務長 山田）
URL：http://shihokai-yokohama.jp/

医療法人 啓仁会 介護老人保健施設 いとうの杜

【入所・通所リハ・短期生活】

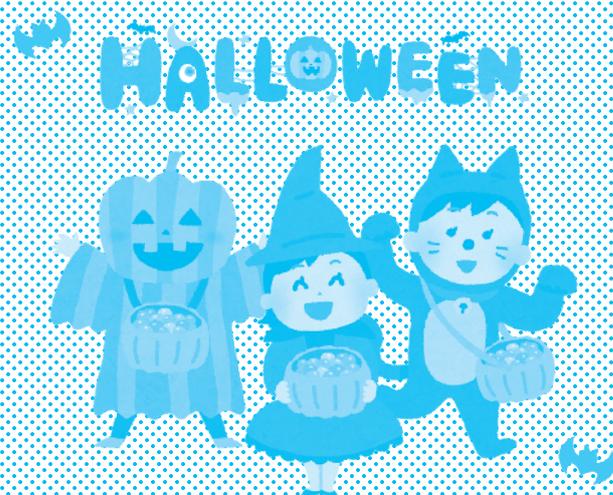
経験豊富なセラピストによるニーズに沿ったリハビリを提供

募集人員：正社員 1 名
給与：月給 240,000 円以上 業務経験 3 年までは法人規程に則る
それ以上の方は年棒 400 万円～ 700 万円以上も可能
人物評価による給与提示

勤務時間：8：30～17：00
休日：年間休日数 111 日／月あたり公休数 8 日～ 10 日
待遇等：昇給年 1 回、賞与年 2 回、退職金制度、制服貸与
交通費負担、社会保険完備、育児休暇、介護休暇
仕事内容、施設見学など、お気軽にお問い合わせください！！

問い合わせ先

人事担当：高久 渡辺
〒 414-0002 静岡県伊東市湯川 288-9
TEL：0557-35-4165
Email：mori@tl-wam.or.jp
URL：https://www.itou-mori.jp/
～LOYAL WAM TOWN GROUP～
19 法人／ 145 事業所



求人案内

公益財団法人横浜YMCA 横浜YMCA学院専門学校

募集人員：常勤1名

応募資格：作業療法士有資格者（臨床経験5年以上）

業務内容：専門学校の専任講師

勤務時間：①9：00～17：30 ②11：30～20：00 シフト制

休日：年間109日（休館日、祝日、夏季休暇、年末年始休暇等含む）

給与：当法人規定により優遇

賞与：年3回 計4か月（昨年度実績）

待遇・昇給：年1回 健康保険・厚生年金・雇用保険・労災保険

福利厚生：プールやジム等のYMCA各施設、英会話・韓国語などの語学クラスなど、さまざまなプログラムが職員割引で利用できます。

プロ野球観戦・美術館優待、結婚・出産・進学等の共済会による各給付制度も充実。

交通：JR京浜東北線・横浜市営地下鉄 関内駅 徒歩3分

選考方法：書類選考、面接

YMCAがロンドンで誕生してから40年後の1884（明治17）年10月18日、横浜海岸教会の青年たちが中心となって横浜YMCAが誕生しました。横浜YMCA学院専門学校では、ともに喜び、心から寄り添うことのできる作業療法士を養成しています。

●まずは電話もしくはメールでお問い合わせください。 ●見学随時

問い合わせ先

〒231-8458 神奈川県横浜市中区常盤町1-7 横浜中央YMCA 6・7F

TEL：045-641-5785 FAX：045-664-4018

担当：教務 青木一弘

Email：yngakuin@yokohamaymca.org.jp

URL：http://www.yokohamaymca.ac.jp/



事務局からのお願い

● 休会される方 ●

来年度に休会予定の方は、前年の**12月31日**（末日消印有効）までに①『休会届』と②『証明書』を郵送でご提出願います。
(FAX不可)。

● 退会される方 ●

年度内に退会予定の方は、**3月15日**までに『退会届』を①郵送又は②FAXにてご提出願います。**(上記日必着)**。

● 届出内容を変更される方 ●

住所・勤務先・氏名・送付先等の変更がある方は、『変更届』を①郵送又は②FAXにてご提出願います。（随時受付）。

届出書類は、神奈川県作業療法士会ホームページ公式ウェブサイトのINDEXより、ダウンロード可能です。なお期日までに提出いただけない場合は、次年度の会費が自動引落としとなり、返金を致しかねます。ご了承ください。

作品コーナー

作品名 中途障害者となって感じる“当たり前”

制作者 清水 樹 様 (28 歳)



プロフィール 私は2010年1月10日にバイク事故に遭い、A病院に搬送され、B病院で高次脳機能障害者と診断されました。事故から8年半ほど経って、半身麻痺の治療のために新戸塚病院に入院していました。

作品について バイク事故で、中途障害者となってから“当たり前”なことができなくなり、そんな“当たり前”に対する想いを川柳にしました。「有り難い」って「ある」のが「難しい」って書くんですね。大学の教授から「人にはそれぞれの“当たり前”がある」とお聞きしました。

担当作業療法士：大沼 涼 氏、榎本 光彦 氏 (新戸塚病院)

編集後記

海、花火、お祭り、バーベキュー、暑くて長かった夏もそろそろ終わりを迎えます。皆さん夏は満喫できましたでしょうか。秋は食欲、芸術、スポーツ、紅葉とまたまたステキな季節になりますね。私は芸術の秋ということで、趣味の楽器演奏に力を注ぐ予定でいます。私にとってとても大切な『作業』です♪
上半期も終わり、下半期に突入ですね！季節の変わり目ですので、体調に気を付けながら、後半も頑張っていきましょう！
(くうさん)

一般社団法人 神奈川県作業療法士会ニュース (193号)2018年10月発行(年6回発行)

発行責任者 錠内 広之
編集責任者 神保 武則
編集担当 出口 弦舞(国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 作業療法学科)
山岡 洸(湘南慶育病院)／佐藤 愛(新戸塚病院)
安田 優子(横浜旭中央総合病院)／丸岡 ちひろ(済生会横浜市東部病院)
井部 賢吾(ハートケア横浜小雀)／松井 洋鷹(淵野辺総合病院)

印刷 発送 事務局 株式会社高陽印刷所
〒231-0011 横浜市中区太田町 4-45 第一国際ビル 301 号
TEL/FAX : 045-663-5997
月火水木金 10:00~15:00
メールアドレス: jim@kana-ot.jp

一般社団法人 神奈川県作業療法士会ウェブサイト

<https://kana-ot.jp> → 作業療法 神奈川 検索

Facebook <https://www.facebook.com/kaotwebkan>
Twitter <https://twitter.com/kaotwebkan>

